

ファシリティマネジメントフォーラム2017

公共施設FM研究部会

「FM思考での公共施設再編から 地域創成・公共施設経営へ」

部会長：東京美装興業(株)
(株)価値総合研究所
大和リース(株)

安藤秀徳
村林正次
浮穴浩一

近年の地方自治体の公共施設等に関する動向

安藤 秀徳

公益社団法人 日本ファシリティマネジメント協会 理事・公共施設F M研究部会 部会長
東京美装興業株式会社 事業開発部 部長

■ 総務大臣より地方公共団体へ「公共施設等総合管理計画」の策定を要請(平成26年4月)

地方自治体の公共施設等が将来にわたって大きく財政を圧迫することを見据え、公共施設等の全体状況を把握し、長期的な視点を持って更新・統廃合・長寿命化を計画することを正式に要請。

「公共施設等総合管理計画」の作成指針では、道路・橋梁などのインフラも含めた公共施設等の現状把握・課題分析を行い、将来財政収入と中長期的な施設等の維持管理費・更新費を鑑み、10年以上の計画期間で施設全体の管理方針を定めることを盛り込んでいる。

公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進イメージ

公共施設等の管理

- 長期的視点に立った老朽化対策の推進
- 適切な維持管理・修繕の実施
- トータルコストの縮減・平準化
- 計画の不断の見直し・充実

まちづくり

- PPP/PFIの活用
- 将来のまちづくりを見据えた検討
- 議会・住民との情報及び現状認識の共有

国土強靱化

- 計画的な点検・診断
- 修繕・更新の履歴の集積・蓄積
- 公共施設等の安全確保
- 耐震化の推進

「公共FMへの提言」 まちづくりとしての公共FM

わがまちのFMから施設経営へ

1. まちづくりとPREを連動させた計画に

単純に総量を減らせば良いわけではない。

自治体・まちづくりとPREを連動させ、且つ実践的、実行可能な、ものにする。

2. 運営から経営の発想転換を

公共施設の全体を把握し、長期的な視点を持って更新、統廃合、長寿命化などを行う事により、財政負担を軽減、公共施設等最適配置の実現化を求められているか。

行政改革の根幹的課題の認識不足、公共施設マネジメントは「運営」から「経営」へ行政改革を行うべきである。

3. 中長期的財政運営の継続をめざして

公共施設等を総合的且つ、計画的に管理することは、地域社会の実情に合ったまちづくりを進める上で不可欠であると共に、国土強靱化に資する。

単なる公共施設等の管理に留まらず、まちづくりや国土強靱化に取り組み、ひいては民間投資につながる計画となる。

4. できることから段階的に

単なる公共施設の管理や削減の計画といった視点ではなく、財政負担の軽減、平準化、まちづくり、民間投資の促進と多分野にわたる取り組みを行い、広義な視点で計画策定を進めていく必要がある。

また、無理せずできることから段階的に行うことが重要である。